

Wén yī yǐ zhī shí
聞 一 以 知 十

一を聞いて十を知る

うえだ あつお
桜美林大学名誉教授 / 孔子学院講師 植田渥雄



孔子は顔回のことを次のように評しています。「回也、其心三月不违仁。其余、则日月至焉而已矣！(Huí yě, qí xīn sān yuè bù wéi rén。Qí yú, zé rì yuè zhì yān ér yǐ yǐ!)」(回や、其の心三月仁に違わず。其の余は、則ち日月に至るのみ)〈雍也第六〉。顔回は、三カ月にわたって仁の心に違わなかった。その他の連中は、一日か、せいぜい一カ月持てばいい方だ、と。

ここで言う「三月」とは長期間、「日月」とは短期間という意味合いです。「仁」とは人間らしい心の在り方を表わす言葉です。人間である以上、人間らしい心を持つこと自体は決して難しいことではない。孔子はまた、「仁遠乎哉！我欲仁，斯仁至矣(Rén yuǎn hū zāi! · Wǒ yù rén, sī rén zhì yǐ)」(仁遠からんや。我仁を欲すれば、斯に仁至る)〈述而第七〉とも言っています。

「仁」とは身近にあるもので、望みさえすれば、誰でも手に入れることができる。要は望むかどうかということです。しかしその心を持続することは容易でない。それができるのは、数ある弟子の中でも只一人、顔回だけだ。これが顔回に対する孔子の、極めつけの評価です。

ある時、孔子は弟子の子貢に次のように問いかけました。「女与回也孰愈？(Rǚ yǔ Huí yě shú yù?)」(女と回やと孰れか愈れる)〈公冶長第五〉。君と顔回と比べたら、どちらが優れているかね、と。

孔子は時として弟子たちに、こういうエゲツない質問をすることがあります。もちろん、緊密な師弟関係だからこそできることです。また子貢は、孔子の弟子の中では自他ともに許す、最も頭の切れる雄弁家です。その雄弁家の子貢がどう反応するか。それを試したかったのかもしれませんが。孔

子の言葉からは、少々茶目っ気さえ感じられます。

子貢は答えました。「賜也何敢望回！(Cì yě hé gǎn wàng huí!)」(賜や何ぞ敢て回を望まん)。私は顔回の足もとにも及びません、と。賜とは子貢の本名です。子貢はさらに続けます。「回也聞一以知十。賜也聞一以知二(Huí yě wén yī yǐ zhī shí。Cì yě wén yī yǐ zhī èr)」(回や一を聞いて以て十を知る。賜や一を聞いて以て二を知る)。顔回は一を聞いて十を知ることができます。私はせいぜい一を聞いて二を知る程度です、と。

それを聞いて孔子は次のように言います。「弗如也！吾与女弗如也(Fú rú yě! Wú yǔ rǚ fú rú yě)」(如かざるなり。吾と女と如かざるなり)。顔回にはかなわないよ、私も君もどちらもかなわないよ、と。

これを見ても、顔回は孔子にとって格別の存在であったことがわかります。しかし、孔子が子貢に言いたかったのはただそれだけでしょうか。一を聞いて十を知るという評価の仕方は、いかにも子貢らしく、間違っているわけではないが、いささか知に偏っています。しかも自分を引き合いに出して「賜や一を聞いて以て二を知る」と評したのは、謙遜からとはいえ余計なことでした。孔子がそのことにある種の違和感を抱いたとしても不思議ではありません。

顔回の偉さはそんなものではない。子貢よ、君はまだ何もわかっていないな。孔子が敢えて自分を引き合いに出してまで、子貢にそれとなく伝えたかったのは、そういうことだと思います。ここにも愛弟子に対する、孔子の細やかな言葉の配慮が見られます。

(わりりい「中国語で読む漢詩の会」講師)

※原文引用は簡体字、訓読は日本常用漢字で表記しています。
文中の「女」は「汝」の異体字です。読み方も「汝」と同じです。